



むかしは何度も 木曾川の洪水による浸水被害が生じていました。

扶桑町山那地区には「山那切れ」と呼ばれる堤防決壊にまつわる伝承が多く残っています。南西方向に流れてきた木曾川が犬山西部付近から西向きに流れを変えるため、湾曲部の外側にあたる扶桑町山那・小淵一帯は流れが強くあたり堤防が決壊しやすい場所だったのです。記録に残るものだけでも「宝亀六年(775)」「天正一四年(1567)」「慶長元年(1596)」「慶長一二年(1607)」など、挙げるときりがありません。

慶長一四年(1609)のお囲堤築造により、この地域の洪水は氾濫による被害は大きく減少しました。しかし、全くなかったわけではなく、その後も「寛永六年(1629)」や「慶安三年(1650)」などで洪水が発生した記録があります。

木曾川決壊による洪水のほかにも、今も語り継がれている水害として「慶応四年(1868)の入鹿切れ」があります。ここでは、入鹿池の決壊により北尾張一帯が水につかり、丹羽・春日井・中島・海東(現海部郡)の4郡133カ村で死者941人、負傷者1,471人、流没耕地約8,400haにのぼる大災害となりました。扶桑町域でも高木・柏森・斎藤などの村々が水につかりました。

「KISSO」Vol.66より引用(平成20年4月発行、国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所)

現在においても、 その可能性はゼロではありません。

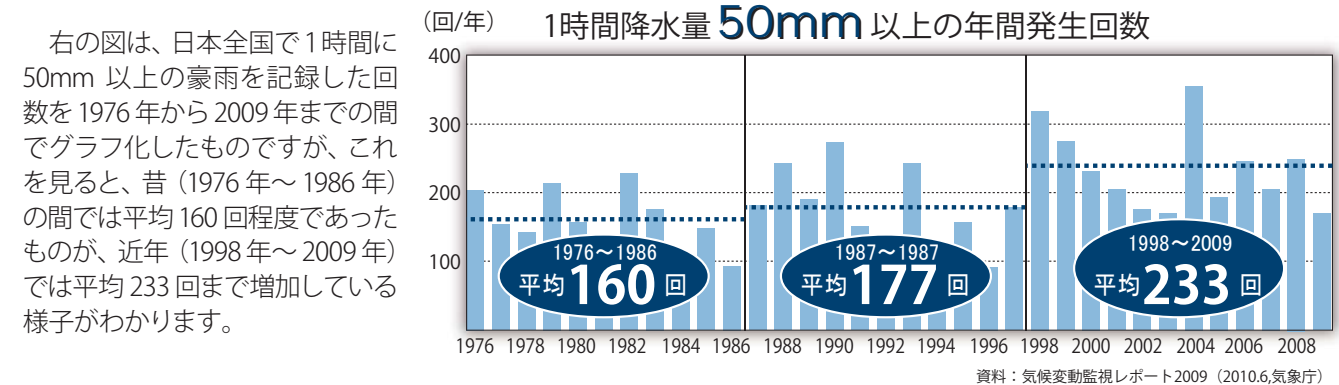
お囲堤ができたことにより、木曾川のはん濫は減少し、特に近年では木曾川の決壊は発生していません。しかしこのことは、扶桑町において木曾川の決壊の可能性が完全にゼロになったということの意味するものではありません。

もとより堤防には「これくらいの洪水まで耐えられる」という上限が設けられていますので、それを超える洪水が起きてしまったら、堤防は耐えることが出来ません。つまり、堤防をさらに高くして上限を高くすれば、さらに大きな洪水にも耐えることが出来るようになりますが、依然としてその上限を超えてしまう洪水には耐えることは出来ないのです。

お囲堤の決壊が幸いにも近年では発生していないという事実は、あくまでもその期間内にお囲堤の上限を超えるような洪水がたまたま発生しなかったことを意味するものであって、決してお囲堤が決壊する危険性がゼロになったことと意味するものではないことに注意が必要です。

将来においては、 豪雨の発生頻度は高まる傾向にあります。

ゲリラ豪雨の頻発などに象徴されるように、近年では雨の降り方が大きく変わってきています。これには、地球温暖化等による気候変動が影響していると考えられています。そのひとつの兆候として、昔に比べて豪雨の発生回数が大幅に増加している点が挙げられます。



順位	日降水量(mm)	起日	都道府県	観測所
1	806.0	1968年9月26日	三重県	尾鷲*
2	790.0	1976年9月11日	香川県	内海
3	765.0	2008年9月13日	沖縄県	与那国島*
4	757.0	2005年9月6日	愛媛県	成就社
5	735.0	1998年9月24日	高知県	繁藤
6	715.0	1996年7月18日	宮崎県	えびの
7	713.0	2005年9月6日	高知県	本川
8	672.0	2001年8月21日	和歌山県	色川
9	644.0	2005年9月6日	高知県	池川
10	628.5	1998年9月24日	高知県	高知*
11	628.0	2005年9月6日	宮崎県	神門
12	627.0	1997年7月26日	奈良県	上北山
13	627.0	1983年8月17日	静岡県	天城山
14	622.0	2010年10月20日	鹿児島県	名瀬*
15	612.0	1997年7月26日	三重県	宮川
16	607.0	1998年8月27日	栃木県	那須
17	604.0	2003年8月8日	高知県	魚梁瀬
18	597.0	2001年8月21日	和歌山県	西川
19	596.9	1896年9月7日	滋賀県	彦根*
20	595.0	2007年9月6日	静岡県	湯ヶ島

さらには、日本全国の各観測地点における観測史上1位の日降水量を多い方から20位まで記した左の表を見てみると、2000年以降の記録がおよそ半数を占めている様子も確認することができます。

■：2000年以降に観測された日降水量

資料：気象庁Webページ
(気象統計情報/過去の気象データ検索/歴代全国ランキング)
使用する観測所には、「アメダス」と「気象官署」の2種類があります。
気象官署には、「東京*」のように地点名に「*」をつけて区別しています。

つまり、治水整備の上限を超えるような豪雨がたとえ今までにほとんど発生していなかったとしても、将来的にはむしろその発生の可能性は増加傾向にあると言えるでしょう。扶桑町においても無縁ではない話として、できることから水害対応策を検討しておくことが重要と言えます。

では、現在の扶桑町に住む私たちは、
どのような水害に備えて
おくべきなのでしょうか。

次のページの「**気づきマップ**」で
まずはその全体像をつかんでおきましょう。

